

小田原ガイド協会だより

— O G O 第98号 —

NPO法人 小田原ガイド協会

小田原市城内 3-22 (〒 250-0014)
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

2023
↓
2024

冬から春にかけての 企画ガイド

コロナ感染症の脅威も和らぎはじめた。今、小田原ガイド協会も活発な企画ガイド提案へとコマをすすめています。従来の昼食を挟んで長い距離を歩く企画も視野に入れながら、いくつかの趣向を凝らした陣容のガイド企画の数々が現在進行中です。その中から新たなコース、新たな内容の冬・春の企画。写真を中心に、簡単に紹介します。

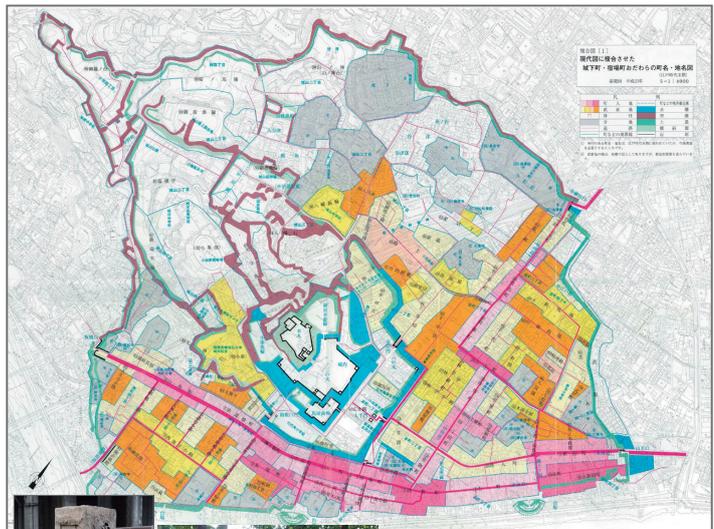


復活!!

小田原 七福神めぐり



毘沙門天
弁財天
寿老人
大黒尊天
恵比寿神
福祿寿
布袋尊



1/9 令和6年
甲辰 (きのえたつ)

1/28・2/8 初春の二宮



1/14・18

【古地図を片手に】
小田原城周辺の町名碑と
金次郎さんゆかりの地を巡る



梅沢海岸



吾妻山

企画ガイド

歩くの大好き下曾我

堀川清子

十月十四日、柑子色の秋を探しに下曾我へ。「ススキ」「セイタカアワダチソウ」めがね橋の「パンパスグラス」「ムクロジ」「キウイ」「ガマ」等が…。彼岸花には遅く、蜜柑の柑子色には早すぎたようです。景色も今一つ。しかし、何もないようにみえて面白いのがここ下曾我です。

瑞雲寺で黄緑色の「ムクロジ」の実が落ちていました。種が数珠や羽根つきの羽根の玉になるでき始めの実。お客様たちは初めて見たようです。

宗我神社で《蘇我》↓宗我↓曾我↓神保と、その時に生きた



ガイドの様子 宗我神社

人の都合で名字が変わったと伝えると「テレビ番組の『日本人のおなまえ』のごとくお名



ガイドの様子 曾我岸公民館前

前談義が始まりました。

下曾我ゆかりらしい名字を紹介しながら歩いていると、門にかかっている表札がその名字でした。一緒に生まれた別の名字が古地図に記載されています。下曾我は八百年前の曾我兄弟の仇討ちだけでなくお名前も話題性のある場所と言えそうです。

曾我兄弟の供養のため創建したという崇泉寺の裏山が、曾我五郎が大山不動を勧請した場所です。彼等が育った場所が案外広くないことが実際に歩いてみるとよくわかります。

曾我氏館跡に行く途中「ガマ」が生えていました。資料を見せながら蒲鉾や蒲団の話します。雌花の綿毛を昔は蒲団にしたとはガイドの私も知りませんでした。

企画ガイド

海に浮かぶ小田原城

関森規安

みかん畑は道中では見つからなかったが、ガイド仲間の差し入れてくれた小さな蜜柑は酸味と甘味のバランスがよくとてもおいしかった。「長一商店」で買って帰るお客様もいらっしやいました。歩くのがメインの下曾我だったが「楽しかった」と満足して帰って下さったことがうれしい。

品なども販売され行列が出来ているところもあった。その中を私の一行が乗ることになった。相模湾ゆかい探検(小田原近海を約60分間漁船でクルージング)の第一便の漁船が到着すると雨が強くなり風も出てきた。酔い止めも飲んだし船が揺れても大丈夫だと自分に言い聞かせた。搭乗が始まりゆかい探検に参加する親子連れも同乗、ライフジャケットも装着し三隻の漁船が漁港を出港した。なかなかの人気だ。漁船に乗るといふ体験は普段できないので人気があるであろう。雨もやまない中、提灯灯台をすぎるとそこは相模湾である。隣の山々も頂(いただき)迄は見えないものの、中腹位までは意外にもスッキリとした深い緑色で見渡せる。しかし相模湾の波も大きく、降りしきる雨に打たれながら、船長室の横で



もスッキリとした深い緑色で見渡せる。しかし相模湾の波も大きく、降りしきる雨に打たれながら、船長室の横で

マイクを借りて出来るだけ平易な言葉を選び、魚のこと、船のことそして歴史などを交えながら話をしていた。

特筆すべきはこの雨、風の中で、漁船がほとんど波に大きく揺られることなく、酔いの心配も無くしごく快適にクルージングできたことである。私は船長室の横にいたので船長がいかに波をよけながら船を操船していたかが手に取るようにわかった。素晴らしいの一言につきる。

やがて船尾からは見えるかどうか心配していた小田原城天守閣が波間に浮かんで見えたのである。一瞬、葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」の絵が浮かんできた。まさしくこのような状態で富士山の替わりに小田原城天守閣が見えたように思えた。私はこの景色を見たいが為に船上ガイドを承ったのであった。



企画ガイド

老舗名店と

小田原あんこ旅

石川正泰

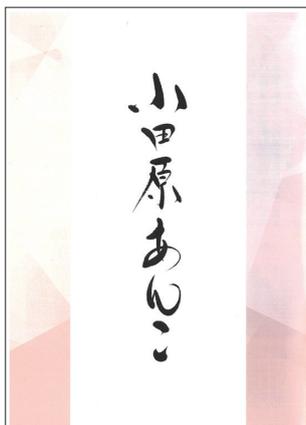
お客様に小田原あんこの小冊子をお配りするところから始めました。

小田原駅西口から出発です。

まず駅構内「箱根ベーカーリー」のへ箱根山龍神あんぱんです。これは「箱根神社の龍神水」を使用、「九頭龍神社本宮」で行われる月次祭に毎月奉納されていて、人気も高いそうです。

次はアーケロードを通り、駅東口へ。駅ビルラスカ一階には「正栄堂」があります。私事ですが、贈答品として当店のへ北条五代セツトを利用することが多く、いつもスタンプカードで購入しております。はい。

東口を出て東通り（旧職安通



「小田原あんこ」小冊子

小田原きつての歴史あるそば処。創業は明治12年。箱根湯本函嶺洞門の近くに店を構えたのがはじまり。二代目の時、現在地へ。四代目が幼少の頃、店の二軒ほど先の警察署へ「母と一緒に出前に行くのだが、留置所もありとても怖かった」と思い出を語る。

母子里郷のそば粉に出会ったのが契機となり、出前はやめた。北海道中部、旭川から車で北へ二時間ほどに母子里の郷はある。「モシリ」と読み、アイヌ語で「大地」を意味する。ここは、日本最低気温マイナス41度以上を記録する厳寒の地。そして、そばを美味しく育てる大地だ。そば畑に自ら足を運び、生産者のそばへの意気込みに惚れ契約栽培に至った。

玄そばを古式石臼で荒く挽くことで味を出し、それを損なうことなく丹精込めて二八で練り上げる。その味を求めて、政治家・各界著名人が訪れる。創作メニューは「そば豆腐」や夏限定の「ほそつ

どん」など。天ぷらは季節の旬の物。唐津焼を愛し、その器が料理をさらに引き立てている。

母子里そばとの出会いは店舗のリニューアルにもつながった。設計は松竹映画の道具屋さん。アーチ形の高い天井には、北条氏と久保氏の家紋が大きく浮き出る。壁の連なる細竹は相模の波打つ海を表現し、カウスター席正面は城の石垣と白壁。その上は吹き抜けで優しい光が注ぐ。掛物はお寺の僧の「書」。「野仏」のオブジェは陶板のように見えるが段ボール製で一見の価値あり。店内中央の和の空間は待合室。一品一品心を込めるとお待たせしてしまうので、客への心配りを感じる。

店を継いでから60年ほどになる四代目ご主人、先代から受け継いだものを「存続」しつつづけることを第一にしてきた。風が吹けば揺れる「のれん」だが、守ってゆくのは非常に重い。



老舗の語源は「仕似せる」まねること。先代にならい引継いで百四十年をゆうに超す。現在の五代目が腕を振るう真正銘の老舗名店の逸品を是非ご賞味あれ。

まち歩き

そば処
とうきあん
東瓦庵
川瀬香智子

り、通称おいしいもの横町)の「守谷製パン」。あんこタップリのへあんぱんは有名ですね。半分に分けても十分な量です。私事ですが「甘食」も捨てがたいです。

ミナカ小田原の三階には「最中工房 種秀」の和菓子店舗「福来すずめ」があります。この店の定番は「小田原城最中」。その隣りが「パン焼処 ブンブンプラス」。こちらもちろろんへあんぱんを紹介しました。そして駅前商店街へ。「うしろう」のお菓子をみて、お堀端通り入口交差点で、直径九センチ程の大きいへおはぎで知られる「岡西」のお店の位置を確認。

お堀端通りでは、うなぎ松琴楼前の「大雄山茶屋天んぐ」のへ下駄饅頭も名物です。「甘味処 鎌倉」をチラ見して、幸田口門跡から土塁を通り、平井書店を左に曲がりスクランブル交差点の角で、お客様が「ここに松坂屋があったよね。コケッコの」と。そうです。ありました。五年前まで。

次は「江嶋」経由で「だるま」へ。行く途中でまたまたお客様より「清水甘納豆屋があったよね」と一言。そうです。とても良い感じのお店でした。お多福豆、うぐいす豆など。懐かしい限り。

「だるま」の説明を終えて、Y

歩道橋を渡り、へバター入りどらやき」の「菜の花」で休憩し、青物町へ。清風楼の手前にあるコインランドリーの場所ですが、かつてここに三政屋がありました。今川焼、アイスなどこれまた懐かしく思い出されます。

その後、川崎長太郎の小屋跡、籠常、籠清を案内して、小田原あんこの源「鈴木製館所」に着きました。店の方の説明を聞き、待ちに待った試食。お客様は揃ってご満悦の様子。そして好みの買い物をお済ませ、解散場所のなりわい交流館へ向かいました。

最後に「豆大福」の「伊勢屋」や国道一号线沿いの「風月堂」「柳川屋ベーカリー」などの説明をして終わりました。思い出深いあんこ旅になりました。



ガイドの様子「なりわい交流館」

委員会だより(Ⅲ)



研修委員会

「研修委員会ってどんなことやっているの?」とよく聞かれます。「協会員のガイド研鑽・知識向上に寄与し、それを提供する役目です。」と今では自然と答えられるようになりました。

初めは一泊バスツアーⅡ史跡巡りに憧れて研修委員を拝命したものの、コロナ禍の影響もあり、様々な制約の中でそれが実現できていません。協会員は今どんな研修を求めているのか模索しながら、日常のガイドに役立つ教育の場をタイムリーに提供し続けることと理解できるようになりました。各研修委員、皆、このような考えで活動していると思えます。いわゆる養成講座の協会員版のようなもの



小田原城ジオ研修【4月11日】

のです。日常のガイドに役立っていたらよいと思います。今年度はジオ研修、新人向けFU研修、文化財研修、下曽我研修などを企画し、研修委員全員の協力のもと、着々と企画案を実行し続けています。

中でも新人向けのFU研修では講師から学び取ることに自ら事前学習に励み、自己研鑽に邁進する姿勢は研修の目的を正しく理解していると感じられ、称賛される姿です。

各研修には座学であれ現地実習であれ、必ず講師の選定が必要となり、誰に講師をお願いするかが最も労力を割くところです。講師はその力量から言って誰にでもできるものでもなく、いつもその人選に苦労しています。目に見えない圧力もありますから…。

今後とも定番であるFU研修は継続するとして、それ以外の新しい目線で研修を企画し、全ての協会員に提供し、ガイドレベル向上に貢献していきたいと考えています。バス旅行Ⅱ史跡巡りも含み、日頃踏み込めないような分野、地域を題材とした内容で進めていきたい。今後とも協会員の更なるご協力をお願いします。

「二〇二三年一〇月・小菅悟志」

シリーズ 家康紀行【最終回】

神になった家康公

日光東照宮 訪問記

橘川 健人



残暑厳しい夏の終わりに日光東照宮（以下東照宮という）を訪ねてみた。東照宮を訪れるのは六年振りである。湘南方面から日光に行くには東海道宇都宮ラインがおすすめ、宇都宮まで乗換無しで小田原から3時間30分余りで行ける。グリーン車に乗れば更に快適である。



大谷川と神橋

る。今回は新たに開通した宇都宮ライトレールを見たいので駅前ビジネスホテルに投宿、名物の餃子とビールを堪能する。翌日は宇都宮駅をスタート、JR日光線で日光駅まで行く。電

車は大谷川（だいやがわ）の扇状地を登って行く。のどかな田園風景が山際の杉並木に変わる頃日光駅に到着する。さすが明治のお抱え外国人が避暑に訪れた日光の玄関、風格のある駅舎である。

ここからバスで神橋（しんきょう）まで行く。およそ10分で到着、思ったより上り坂、バスで正解である。神橋は東照宮の入口にあり、大谷川の清流に掛かる赤い木造の大変美しい橋である。現在のような橋になったのは寛永13年（一六三六）で東照宮の大造営時に掛けられたが、現在の橋は明治37年（一九〇四）に再建された橋である。ここには、板垣退助銅像と「天海上人像」もあるのでは是非見て頂きたい。何故ここに板垣退助像があるのか？話は戊辰宇都宮戦争に由来する。

旧幕軍は宇都宮城と東照宮に立てこもるが、フランス流に整備された大鳥圭介軍に板垣率いる新政府軍は苦戦する。そこで土佐藩より旧幕軍が立てこもる東照宮を攻撃する意見が出るが、それを板垣が止めた事に由来するそうだ。今では大政奉還後も徳川家中心の政権を目指した土佐藩でそのような話は無いと言うことになってきたが、とにかく東照宮が無傷で残っ

て良かったと思う。神橋を過ぎ大谷川を渡ると太郎杉があり、ここから参道は上り坂になり、程なく三仏堂經由で東照宮の入口に到着する。石鳥居の横に東京スカイツワールと同じ標高（六三四）の案内柱がある。下界は猛暑日であったが、ここは社叢林もあり過ごしやすい。石鳥居の先の表門から境内は有料となる。表門を抜けると立派な神庫が見え、左側は三猿の彫刻で有名な神廐である。この日は川崎市の修学旅行生で大混雑、やっと三猿を確認した。

次に混雑を避け先に陽明門に行く。前回は気付かなかつたが、陽明門を支える12本の柱の内、背面にある柱の一本が「逆柱」で「グ



陽明門逆柱
[左側の柱が逆柱
ぐり紋が下向き]
↓
物事全て完全であると
魔が差す

リ紋」が逆さになっている。これは物事全て完全であると直ぐに魔が差すという日本固有の考え方に由来し、陽明門が未完成であることを示している。陽明門から唐門を見て本殿に入り拝殿でお参りする。その後はこれまた有名な彫刻「眠り猫」のある東回廊をぐぐり急坂を登ると家康公のご遺体が眠る奥社に着く。奥社は家康公が祭られている立派な石塔を一周してお参りするよう通路が作られている。無事奥社参拝も終わり先程見逃した本地堂の鳴竜見物に行く。丁度空いていて数名の日本人と欧米系の外人と一緒にお堂に入る。すると中の坊様が鳴竜を日本語と英語で流暢に説明した。そして坊様が拍子木を叩くと見事天井の竜が共鳴して鳴く、勿論一同大感激、そのタイミングで坊様は鳴竜の鈴の売り込みをする。縁起物で一個千円、こういうトークに全く弱い僕のみが購入した。

この日は他にも「魔除けの破魔矢」「御守の錫杖」を薦められ全部購入、それが良い思い出になると信じ、東照宮を後にした。

【お奨めの宇都宮餃子店は正嗣・宇都宮餃子館／日光駅前のお薦めはうどん処山本】

訪問日二〇二三年八月三十一日

一天災は忘れたころにやってくる

すべての災害は忘れたころにやってきます。では、どうすればよいのでしょうか。地震の多い日本は、危険な場所が溢れています。津波の心配な海岸付近、液状化現象を起こす海岸の埋め立て地、盛り土や急斜面により土砂崩れの危険な山間部、長周期振動の起こりやすい高層マンション、落下物の危険のある住宅密集地、活断層に近いところ、私たちは、それぞれの場所で、地震に備えなければいけません。最悪な事態を想定して準備をし、地震が起きなければ善しとしたいものです。

二 地震は必ず来ます。すぐに準備に取り掛かりましょう

飲料水と非常食は、救援物資の配給に少なくとも三日はかかります。一人一リットル（料理用も入れると三リットル）の飲み物と料理せずに食べられる缶詰や乾パンなど、三日分の備蓄食料が必要が必要です。電気・ガス・水道のライフラインが壊滅すれば、回復に一週間の時間を必要とします。安心のために七日分の備蓄を準備してお

きましょう。

その他の備蓄品は、タオル、マスク、トイレットペーパー、幼い子供のミルクやおむつの五日分、携帯懐炉、かさばらない防寒具なども準備しておきます。これらの食料品や備品は分散させて保管するのが安心です。

次に非常持ち出し品は、必要最小限のものをリュックサックに入



真木 和男

今年は大正 12 年の関東大震災から百年目の区切りに当たります。そこで、4 回にわたり〈地震の仕組み〉〈関東大震災〉〈小田原の地震〉〈防災〉について連載いたします。

第四回目は 地震に対する防災 についてお話しします

ガラスでケガをしないためのスリッパまた靴、懐中電灯、メガネを枕元に置き、助けを求めるためのホイッスルは身に付けて置くことに立ちます。

地震による負傷者のほとんどは、家具類の転倒・落下によるものです。家具類は固定する、ベッドの周りには倒れやすいものを置かない、部屋の出入り口や廊下には家具を置かないようにして逃げ道を確認しておくようにしましょう。その他に、生活に欠かせないものとして簡易トイレなどもあると便利です。

また、地元のハザードマップの準備や家族と避難場所や連絡方法を話しあっておくことも大切です。

三 地震が起きたらどうする

揺れ始めてから三分間の行動が一番大切です。大きな縦揺れを感じたら、まず自分の頭を守りま

す。ベッドや机の下へ移動して、布団を被り、また頭をクッションで保護します。料理中であつても慌てて火を消したりしないように

しましょう。慌てるとかえって大きな火事になります。屋外ではカバンで頭を守り、また看板などの落下に注意して安全な場所へ移動する。屋内、屋外でも揺れが収まるまで、安全なところで動かず待ちましょう。慌てて外へ飛び出すことも危険です。

揺れが収まったならば、まず落ち着いて火の始末をします。次に、ガスの元栓を締め、通電火災を防ぐため電気のブレーカーも必ず落とします。ドアを開け、出口を確認しましょう。

四 地震から身を守るために、今、何を訓練すべきか

地震はいつ起きるのか全く分からない、ある日突然、地面を揺り動かす、私達を恐怖に陥れるのです。揺れ始めてからの三分間、はじめに頭を保護する、揺れが収まったら火の始末をする。一連の流れのシミュレーションを常に訓練しておけば、実際の地震の時に、落ち着いた行動がとれると思います。

今回は、岩波ジュニア新書『自然災害からいのちを守る科学』とNHKラジオ番組『安心ラジオ防災と気象』を参考にしました。

リレーエッセイ／わたしの城旅 ②②

石垣好きのご縁で二本松城

土方祐子

記録的な猛暑、残暑が続いた今年の八月と九月、福島県の二本松城を訪れた。

二本松城は、室町中期には畠山氏、その後伊達氏が支配。天正一八年の奥州仕置により会津藩に組み入れられ、蒲生、上杉、加藤氏らの支配を受けた。

寛永二〇年、二本松藩が誕生し丹羽氏が入府。戊辰戦争を経て幕末を迎えた。又、中世城館と近世城郭が同一箇所にあつた事により、慶長、元和、寛永、江戸後期と各時代の石積み様式を遺す「石垣博物館」でもある。

(二本松城パンフレットより)

訪れるきっかけは、今年二月。一夜城でひとりの男性に声をかけられた事に始まる。Eさんは文化財石垣の修復・調査を手掛けていられると。事。ガイド後「興味をお持ちなら…」と修復作業見学のお許しを頂いた。修復箇所は昨年の地震で孕みの出た三の丸高石垣西側。

かくして心躍らせ二本松へ…
日帰りの一人旅。



二本松城の石垣修復と解体調査

八月は、石垣取り外し作業中の石垣内部、外した築石等を見学。貴重な体験をさせて頂く。しかし不覚にも私は暑さでダウン。見学も中断。ご心配をお掛けしてしまつた。九月には石垣積み上げ作業の見学へ。今回は同期入会の三人も一緒。日程が合わず実際の作業は見られなかったが、作業中のビデオをご用意くださり、作業手順等の説明を受けた。資料も沢山頂戴した。前回同様、数々のお心遣いとご親切に只々感謝。

その後、前回諦めた搦手門石垣、本丸直下の大石垣、二段石垣などを見学しながら本丸石垣へ。

それにしてもEさんの技術者ならではの説明は大変興味深いものばかり。それに加え野面積みの魅力、石垣が美しく見える瞬間の話、崩れ行く一夜城の石垣を今見る事の出来る幸せ等々：耳にする言葉はどれも印象深く心に残る。今思うにこの旅は、一夜城の野面積みに心惹かれる私への贈り物だったのだろうか？

帰りに、本丸から見下ろす二本松の街に大きく綺麗な虹が架かった。

「わあ、最後までステキ！
いい出会い、いい夏だったなあ…」

【9月以降の退会者】

楠田栄一さん

ありがとうございました

【編集後記】

■今号の編集期間は「真夏」と「真冬」を感じながらすすめたので、かなりの時を費やしたように思え、終わって虚脱感を覚えた。作業期間中、うれしいことがふたつあって、ひとつは「阪神タイガース日本一」生涯二度日本一の美酒。これはまことか？…。もうひとつはビートルズの新曲が出たこと。一九七〇年解散の時、自分が何をしていたか。鮮明に思い出された。Now and then… (U)

【2024年企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

企画名	月日	コース概要
小田原七福神めぐり	1/9 (火)	小田急線足柄駅～潮音寺～福泉寺～鳳楽院～蓮船寺～報身寺～大蓮寺～円福寺～なりわい交流館
小田原城周辺の町名碑と金次郎さんゆかりの地を巡る	1/14・18 (日) (木)	小田原駅東口金次郎像～小田原城周辺の町名碑の数々～報徳二宮神社
【トリプルA】海・菜の花・富士山の吾妻山ウォーキング!	1/28・2/8 (日) (木)	二宮駅南口～梅沢海岸～梅沢の立場～旧東海道～一里塚跡～川勾神社～西光寺～吾妻山公園
回遊バス「うめまる号」で行く一夜城ヨロイツカファーム	2月 10・18・23 (土) (日) (祝)	小田原駅～石垣山一夜城～一夜城ヨロイツカファーム～松本剛吉邸～小田原駅

・詳細は、小田原ガイド協会ホームページをご覧ください。

【編集委員】 磯崎知可子 柏木由美子 上田信一 飯沼忠雄

令和5年度賛助会員

賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。

賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

☎ 0465-

朝ドラファ〜ミハルネ店 23-3100	せきしん運輸 42-7375
鱒亭北條 080-5465-0066	田 毎 24-3030
伊 勢 屋 22-3378	田中屋本店 22-5545
ういろう 24-0560	だるま料理店 22-4128
魚市場食堂 23-3818	長一商店 42-0359
江 嶋 22-1661	欄干橋ちん里う 22-1547
小田原種秀本店 22-6238	露木木工所 22-5995
小田原箱根商工会議所 23-1811	東 崑 庵 22-4657
籠 清 23-4530	鳥 かつ 楼 22-2078
籠 常 商店 23-1807	菜 の 花 24-5688
柏木美術鋳物研究所 22-4328	箱根屋酒店 22-6416
カネタ前田商店 23-4741	小田原早川漁村 24-7800
甘味処 鎌 倉 20-4475	平 井 書 店 22-5370
居酒屋 金 時 23-0721	松崎屋陶器店 24-2479
食事処 幸 繁 22-5155	マツシタ靴店 24-2233
グリル 木の实 22-2912	万 葉 の 湯 23-1126
さがみ信用金庫 24-3161	柳屋ベーカリー 23-2342
志村屋米穀店 24-2224	山市湯川商店 22-5637
鈴木製館所 22-3520	山 安 21-1137
鈴廣かまぼこ 22-2333	R Y O 20-0077

【50音順】